



中央ろうきん助成プログラム



2016
選考結果

中央ろうきん社会貢献基金

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5
フリーダイヤル：0120-86-6956 (平日9:00~18:00)

r2100 PRINTED WITH SOY INK
この冊子は古紙配合率100%の再生紙
および大豆油インキを使用しています。

2016年選考結果

ごあいさつ

〈ろうきん〉は、働く仲間を応援する非営利・協同組織の福祉金融機関。「働く人の生活を守り向上させる」という使命のもと、労働組合・生協・市民活動団体などの非営利組織と連携した助け合いの金融機能によって、働く人が安心して暮らすことができる地域社会の実現に取り組んでいます。

いま、働く人が暮らす地域は、子育てや環境、介護、さまざまな障がいや困難、格差など、たくさんの課題を抱えています。

「ひと」がそれぞれの地域で喜びと誇りを持って働き、活動し、共にいきる一。私たちは、そうした人間味ゆたかな「共生社会」の具体化をめざし、2002年度に「中央ろうきん助成プログラム 個性が輝く“ひと・まち・暮らし”づくり」をスタートしました。

このプログラムは、関東エリア1都7県を対象に、未来の財産となる「ひと」を育て、魅力的で住みよい「まち」をつくり、多様な生きかたを認め合う「暮らし」を実現する活動を応援します。

特に財政規模の比較的小さな団体を対象とし、市民活動の新しい芽をじっくり支えるプログラムとなっています。

今年4月、2016年の選考作業を無事終了することができました。中央ろうきんをご利用いただいている皆さまへの感謝の気持ちと、一人でも多くの方に「中央ろうきん助成プログラム」を知っていただきたいという思いから、本冊子「2016年選考結果」を作成いたしました。

心をこめて、皆さまにご報告させていただきます。

中央ろうきん社会貢献基金



*このプログラムは、特定非営利活動法人市民社会創造ファンドの協力のもと、企画・運営を行っています。

中央ろうきん社会貢献基金

福祉・環境および文化にかかわる助成、支援活動を通じて、人々が共生できる社会の実現に資することを目的に設立(2002年4月1日)。働く人の団体、広く市民の参加による団体に対する助成・支援活動とそのため必要な事業を実施しています。

特定非営利活動法人市民社会創造ファンド

新しい市民社会の実現に寄与することを理念とし、NPOの資金源を豊かにし、民間非営利セクターの自立した発展と活発化を図ることを目的に、日本NPOセンターの実績の一部を継承・発展するかたちで設立(2002年4月1日)。個人・企業・団体等からの多様な寄附や助成の受け皿となる専門的なコンサルテーション機能を備えた資金仲介組織です。 <http://www.civilfund.org>

「中央ろうきん助成プログラム 個性が輝く“ひと・まち・暮らし”づくり」は、市民活動の促進をめざして取り組む中央労働金庫(中央ろうきん)の社会貢献活動です。

今年は、応募件数224件の中から56件、助成総額1,970万円(内訳:スタート助成51件 助成総額1,514万円、ステップアップ助成5件 助成総額456万円)が、選考委員会による審査の結果、助成対象として選ばれました。

● 本プログラムの対象分野 下記の3分野を対象としています(複数の分野にわたって取り組む活動も含まれます)。

1 ひとづくり 未来をになう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動など	2 まちづくり 生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住みよい地域環境をつくる活動など	3 暮らしづくり 地域に生きる人が、さまざまな障がいや困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動など
---	---	--

● 重視する活動

1 働く人が、自らの経験を活かして参加する活動	2 自らの地域をよりよくするために、さまざまな人が自発的に参加する活動	3 地域のさまざまな団体が連携し、参加する活動
-----------------------------------	---	-----------------------------------

● 選考委員会

※敬称略 所属名は選考委員会開催時点(2016年3月)

- 選考委員長 葉袋 奈美子 (日本女子大学 家政学部 住居学科 准教授)
- 選考委員 岩井 俊宗 (特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事)
- 選考委員 黒河 悟 (労働者福祉東部ブロック協議会 会長)
- 選考委員 星野 智子 (一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事)
- 選考委員 吉野 裕之 (一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団 チーフ・プログラム・オフィサー)
- 選考委員 岩村 真奈美 (中央労働金庫 総合企画部CSR企画 チーフマネージャー)

● 予備審査

地区	NPO支援組織	中央労働金庫
茨城	特定非営利活動法人ひたちNPOセンター・with you	茨城県本部
栃木	認定特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク	栃木県本部
群馬	群馬NPO協議会	群馬県本部
埼玉	認定特定非営利活動法人さいたまNPOセンター	埼玉県本部
千葉	特定非営利活動法人ちば市民活動・市民事業サポートクラブ	千葉県本部
東京	東京ボランティア・市民活動センター	東京都本部
神奈川	認定特定非営利活動法人 藤沢市市民活動推進連絡会	神奈川県本部
山梨	特定非営利活動法人山梨県ボランティア協会	山梨県本部

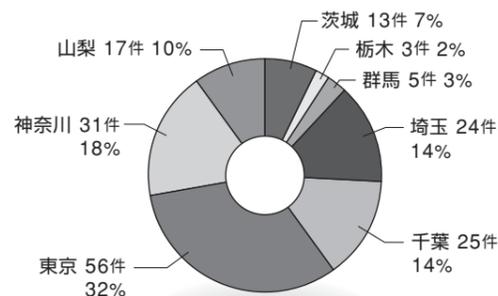
2016年助成の 選考について



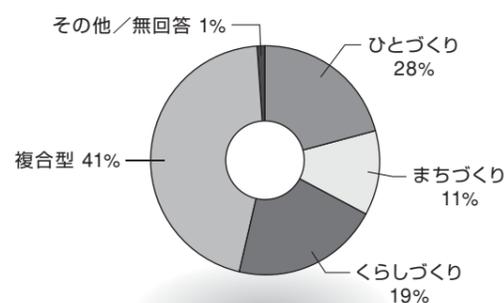
選考委員長による選後評

選考委員長 薬袋 奈美子 (日本女子大学 家政学部 住居学科 准教授)

<地域別応募状況>



<活動分野別応募状況>



[分類]

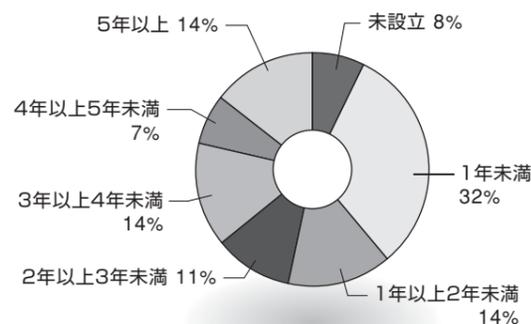
- ひとづくり
未来をにう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動 など
- まちづくり
生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住みよい地域環境をつくる活動 など
- くらしづくり
地域に生きる人が、さまざまな障がいや困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動 など
- 複合型
他分野との複合により、上記1~3の分野に関連する活動 など

●都県別の応募数・本審査対象数・選考結果

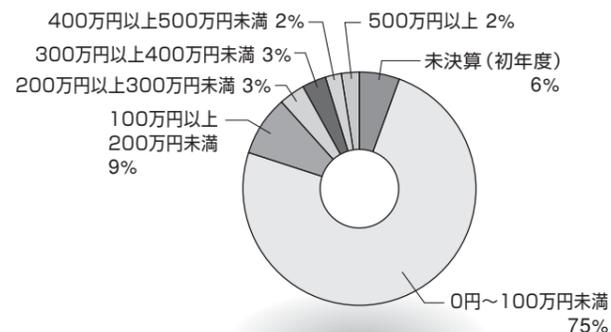
都県名	スタート助成・1年目			スタート助成・2年目			スタート助成・3年目			ステップアップ助成			採択数 合計
	応募	本審	結果	応募	本審	結果	応募	本審	結果	応募	本審	結果	
茨城	13	5	1	3	2	2	0	0	0	0	0	0	3
栃木	3	1	1	3	3	1	1	1	1	2	2	1	4
群馬	5	3	2	3	3	2	1	1	1	0	0	0	5
埼玉	24	10	2	2	1	1	1	1	1	1	0	0	4
千葉	25	10	4	2	2	1	2	2	2	1	1	1	8
東京	56	13	7	5	4	4	4	4	3	5	2	1	15
神奈川	31	12	4	5	5	4	3	2	2	2	2	2	12
山梨	17	6	2	3	3	2	1	1	1	0	0	0	5
合計	174	60	23	26	23	17	13	12	11	11	7	5	56

※スタート助成1年目(174件)を対象として集計

<応募団体の活動年数>



<応募団体の支出規模>



「個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり」というタイトルがある通り、応募書類からは、地域での課題を市民活動だからこそ持ち得る視点で、仲間と手を取り合っている活動している、あるいは始めようとしていることが感じられました。1都7県から、スタート助成1年目に174件、そして継続助成に50件もの応募があったことを、大変心強く思います。選考の様子を簡単にご紹介します。

スタート助成1年目は、風呂敷を広げすぎずに、1年間で実現できる見通しがあるのか、募集要項にも示されていた地域の様々な人や組織との連携・応援の可能性が重視されました。スタート助成2年目は、一年間の試行錯誤の連続の中での計画の実現に加えて、地域の新たな参加者とのつながりが作られ始めているかも、大切にされました。

スタート助成3年目は、ポスターセッション形式で、書面だけでは読み取れない熱意も含めて、2年間の活動成果を確認した上での審査となりました。自治体や地域からの応援が得られ、自立できそうな団体もあり、心強く感じました。また、地域とのつながりだけではなく、コアメンバーとなる仲間を得られそうか、という点も議論になりました。報酬ではなく、お互いの信頼関係とミッション(活動目的)への共感を通じて、共に活動する仲間を見つけられる組織運営力があるかどうか問われるわけです。市民活動は、初めは仲間が少なくても、活動をしながらかの共感の輪を広げ、多角的な視野と様々な技術・知識を持った複数の中心活動メンバーを募ることができれば、活動は地域にしっかりと根付きます。

ステップアップ助成は、助成金額の上限が100万円ですから、まとまった活動ができます。書類審査に加えて、各団体に活動成果と今後の計画についてプレゼンテーションを行っていただきました。審査で議論になったことは、組織の

内外において活動を支える仲間が十分にいて、新たなステージに向かって歩み始めているのか、という点でした。思いが強すぎた団体や、助成金終了後の経済的な基盤に不安を感じる団体もありましたが、この一年で次の体制づくりについても意識いただけると期待して助成を決定しました。

応募いただいた全団体に助成ができると思いますが、財源が限られていますので絞らざるを得ませんでした。しかし、この“絞られる”という緊張感があるからこそ、各団体の皆さまも、次のステップに向けて工夫し、応募されたのではないかと思います。中には、募集期間直前に開催されたフォローアップミーティング(スタート助成1・2年目対象)のアドバイスが有効だった団体もあったのではないのでしょうか。今回ご縁の無かった団体の方も、今後も様々な機会にチャレンジされることを願っています。

手前味噌になりますが、2015年度秋から始まったNHKの朝の連続テレビ小説“あさが来た”は、私の勤める日本女子大学創立をモデルにしたドラマでした。創立者の成瀬仁蔵は、明治時代に、女性が社会を変える力を持つと信じ、女性の視点で課題だと思ふことを研究し、社会に還元することを一つの柱として本学を創立しました。そして学生に“信念徹底”“自発創成”“共同奉仕”の三つの言葉を残しましたが、これは市民活動を発展させる際にも大いに力になる言葉です。

社会で課題を見出した時に信念を持って取り組み、従来の方法にこだわらずに挑戦し、仲間と助け合って実現する、と読みかえられます。これは、市民社会を実現する団体に4つのステップを用意して巣立たせようとする「中央ろうきん助成プログラム」に相通じるのを感じます。想定していなかった自然災害が発生し、変化の激しい社会では従来と異なる課題が次々に挙がります。今後の「中央ろうきん助成プログラム」と、助成対象団体の活動の発展に期待しています。

2016年助成団体一覧

※2016年4月現在。活動名は一部変更となる場合がございます。

<スタート助成・1年目：23件> 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
茨城	子供達に伝え引き継いで行く里山再生プロジェクト	結城里山の会	海老澤 功	結城市	30万円
栃木	滞日ネパール人への生活情報提供プロジェクト	滞日ネパール人のための情報提供ネットワーク	アリヤル・サントス	東京都(新宿区・大田区・杉並区・荒川区)、神奈川県、埼玉県	30万円
群馬	経済的困窮者や1人親家庭の子どもへの学習支援	ボランティア学習塾HOPE	高橋 寛	高崎市 安中市	30万円
群馬	アリスの広場(不登校やひきこもり、ニートの若者の居場所)	特定非営利活動法人ぐんま若者応援ネット	佐藤 真人	群馬県、埼玉県、栃木県	29万円
埼玉	地域活性交流ふれあい事業～人がつながり地域を活性化していくサロン	特定非営利活動法人ジョイライフさやま	久保田 慎三郎	狭山市	30万円
埼玉	定時制生徒一人ひとりに大学生チューターを！～早めの目標設定と進捗サポートで退学防止と卒業後の進路の選択肢を広げる～	monkey_spitz	三田寺 安子	さいたま市を中心とした県内全域	29万円
千葉	貧困層の中高生にライフスキル教育をする子ども食堂	特定非営利活動法人JASH 日本性の健康協会	山口 巖	八千代市	30万円
千葉	わが町を“ふれあいツーリズムタウン・船橋”に!	ふなばし街歩きネットワーク	浅井 信	船橋市	30万円
千葉	こみかる一むを拠点とした地域交流と子供・高齢者の協同支援	子どもの未来を考える会	佐藤 良治	松戸市西馬橋	30万円
千葉	「地球仲間たち、'世界'を受け入れ'日本'を分かち合う」	特定非営利活動法人 幕張エキスパート&ジャパニーズコネクション	荻野 星珠	千葉市ほか	30万円
東京	実家集って、みんな一緒にワイワイ! 育ちあう。	地域福祉スペース ⇒CASA: ワイワイ!	小沼 好宏	練馬区 西東京市	30万円
東京	フードバンク推進事業	フードバンク狛江	田中 妙子	狛江市、世田谷区、調布市	30万円
東京	児童養護施設・里親経験者等へのシェアハウス提供による自立支援	特定非営利活動法人NGOフク21ふらっとホーム	福田 茂雄	江東区白河	30万円
東京	(仮)なにしょっかクラブ～子どものやりたいを実現する場～	さきちゃんち運営委員会	八木 晶子	文京区	30万円
東京	高齢単身女性の貧困はどこから来ているのか? 日本の貧困問題を考える。	わくわくシニアシングルス	大矢 さよ子	都内全域	18万円
東京	きづく×きづくアウトリーチスポーツプログラム	特定非営利活動法人Being ALIVE Japan	北野 華子	世田谷区	30万円
東京	芝園団地における地域活性化活動	芝園かけはしプロジェクト	寺澤 峻之	川口市川口 芝園団地	29万円
神奈川	「もったいない!」をみんなの笑顔に～小さな村のジャムづくり～	特定非営利活動法人結の樹よってけし	岩澤 克美	清川村	30万円
神奈川	高齢者の見守りの仕組みを構築(縦割りの自治会間を横断的につなぎ超高齢化に対応する)	地域情報コミュニティ	中屋 誠	横浜市旭区左近山団地・市沢団地等地域	30万円
神奈川	子ども未来café(リアル部門)	特定非営利活動法人Friends to Family	森野 宇宙	横浜市	30万円
神奈川	弱者が参加する防災まちづくりに関する調査研究ならびに支援活動	特定非営利活動法人弱者のための暮らし・まちづくり支援センター	山下 仁	藤沢市ほか	29万円

計 674万円

<スタート助成・2年目：17件> 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
茨城	3世代を繋ぐ地域みんなの子育てネットワークの構築(情報発信～コミュニティ場づくりへ)	もりや子育てネットワーク ままもり	宮下 嘉代子	守谷市、つくば みらい市、取手市	30万円
茨城	人とのコミュニケーションがうまくとれなくて困っている子どもとその保護者のための「みんな いい♡2016」	特定非営利活動法人こどもの育ちサポートステーション	大山 吐志	大洗町 近隣市町村	30万円
栃木	ハイブリット型自然エネルギーマイクロ発電機(水力+太陽光)の製作及び活用	鹿沼自然エネルギー推進会	鈴木 貢	鹿沼市およびその周辺市町	30万円
群馬	日本語を母語としない人のための受診・健診・防災 安心サポート	群馬の医療と言語・文化を考える会	原 美雪	県内全域	30万円
群馬	地域活性化サロン運営	自遊空間 みちくさ	坂本 久美子	高崎市および近郊市町村	30万円
埼玉	更年期を迎える女性の健康をサポート～地域に広げる支援者を養成～	特定非営利活動法人ちえぶら	永田 京子	埼玉県 東京都	30万円
千葉	市民が市民の為に活動する市民後見人として、行政からの支援が届きにくい市民層にも光を!	特定非営利活動法人市民後見太陽	神 時夫	富里市を中心にその近隣市町村	30万円
東京	助け合いのしくみと地域の居場所「お互いさまネット・Olive(オリーブ)」の開設	お互いさまネット・Olive(オリーブ)	紀平 容子	立川市、国分寺市、小平市	30万円
東京	立川市周辺の子育て情報サイト運営における「育児中のママ・パパ記者」の育成とネットワーク作り	ワッカチッタ	石橋 由美子	立川市	30万円
東京	夜の児童館	特定非営利活動法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク	栗林 知絵子	豊島区	30万円
東京	地域で多世代交流「これたま」プロジェクト	コレクティブハウス聖蹟地域交流プロジェクトチーム	大橋 徹平	多摩市	30万円
神奈川	庭先の小さな図書館づくりプロジェクト	街の家族運営委員会	岩間 千秋	横浜市青葉区	30万円
神奈川	複合的・重層的な課題を抱える若者支援のための事例研究会・支援者養成講座	かながわ生徒・若者支援センター	中田 正敏	県内全域	30万円
神奈川	ひきこもり・ニート・発達障害者の家族支援のための支援者研修	ふわふわの会	大塚 道子	藤沢市と近隣地域	30万円
神奈川	乳幼児のための自然あそび教室	Cooing	丹治 由美	葉山町 横須賀市	30万円
山梨	ひきこもり当事者の社会復帰への支援	ひきこもり支援 すみれ会	清水 美千子	県内全域	30万円
山梨	地域資源の有効活用、人々の支え合いで住み良い街づくり	特定非営利活動法人みんなの街	室田 泰文	主に北杜市	30万円

計 510万円



<スタート助成・3年目：11件> 活動開始資金／1団体上限30万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 栃木	ひとり親家庭の子への学習支援と主にひとり親家庭を中心とする生活困窮家庭の親と子のための居場所づくり	特定非営利活動法人 コドモネットらくだーず	宮路 順子	県内全域 (主に宇都宮市)	30万円
2 群馬	古民家で3世代交流コミュニティづくり活動	特定非営利活動法人 思いをつなぐ会	葛西 詔子	高崎市	30万円
3 埼玉	コミュニティカフェを拠点とした、生活困難家庭青少年への学習支援活動	チームひだまり	上蓑 礼子	川越市	30万円
4 千葉	介護家庭への支援～寄り添える人を地域で増やし、支えあうまちづくり～を目指して	特定非営利活動法人 ケアラーネットみちくさ	布川 佐登美	柏市	30万円
5 千葉	まちづくりがきっかけでよくなる 土気NGOまちづくり実践塾	特定非営利活動法人 土気NGO	武田 伸也	千葉市	30万円
6 東京	モノづくりサロン	モノづくりサロン	河原 由香里	1都7県	30万円
7 東京	LGBT就活ウェブサイト運営	特定非営利活動法人 ReBit	薬師 実芳	1都7県、全国	30万円
8 東京	訪問大学「おおきなき」(重度の障害を持つ方の特別支援学校卒業後の生涯学習の支援)	おおきなき	相澤 純一	大田区近郊 川崎市	30万円
9 神奈川	「多文化親子交流会」を起点に在住外国人が安心して暮らせるコミュニティづくり	Sharing Caring CULTURE	三坂 慶子	横浜市青葉区 都筑区	30万円
10 神奈川	まちのこそだち久木	逗子まちのこ保育プロジェクト	井上 亮子	逗子市	30万円
11 山梨	こども若者ソーシャルビジネス学校	特定非営利活動法人 bond place	小笠原 祐司	県内全域	30万円
計					330万円



<ステップアップ助成：5件> 活動展開資金／1団体上限100万円

都県名	活動名	団体名	代表者名	活動対象地域	助成額
1 栃木	暮らしをお互いに支えあう地域づくりの拠点として、カフェ&相談事業の開設	特定非営利活動法人 地域生活相互支援 大山田ノンフェール・くらねえ	山田 英津子	那珂川町	87万円
2 千葉	～社会で自立する力を地域で育む～ 「大学生ギアチェンジ・プログラム」	CHIEの輪	阿部 剛	松戸市	89万円
3 東京	自転車タクシーを活用した高齢者等の外出応援プロジェクトとその他付随事業	特定非営利活動法人 みらくる	三好 義仁	葛飾区	100万円
4 神奈川	土・水・作物・いきものとともに、のびのび育ち合う居場所づくり～畑を拠点に、0歳から小学生までの育ちの輪をさらに広げよう～	青空保育 ペんぺんぐさ	井上 香織	横浜市青葉区	90万円
5 神奈川	真鶴町における「バリアフリーな海」づくり	特定非営利活動法人 ディスカバーブルー	水井 涼太	真鶴町	90万円
計					456万円



スタート助成・3年目／ステップアップ助成 対象団体の概要



ひとり親家庭の子への学習支援と主にひとり親家庭を中心とする生活困窮家庭の親と子のための居場所づくり 栃木県

特定非営利活動法人 コドモネットらくだーず

栃木県宇都宮市を中心に、ひとり親家庭の親子が生き生きと暮らすための相談会や交流会、セミナー等を通じた支援をはじめ、ひとり親家庭の親子のための居場所づくりや学習支援等に取り組む団体(2002年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、セミナーやワークショップ、交流会といった、ひとり親家庭の親子同士の交流機会・学びの場を創出するとともに、経済的な事情や親の仕事の都合により、学習塾や行政・NPO等による学習支援にアクセスすることのできない複合的な課題を抱える子ども達を対象とした無料の訪問型学習支援に取り組んだ。

3年目は、これまで実施してきた支援の質の向上を図りつつ、「子ども食堂」の実施を視野に入れた拠点整備に取り組む。また、これまで課題となっていた「ひとり親サポーター」の養成を通じ、運営面の強化を目指す。



古民家で3世代交流コミュニティづくり活動 群馬県

特定非営利活動法人 思いをつなぐ会

「子どもを育てることは自分の未来を構築することである」との考えから、子育てに関わる女性の意識向上を通じ、子どもたちが希望をもって生きていける社会の実現に取り組む団体(2009年設立)。

2ヵ年のスタート助成を受け、高崎市の特定歴史的景観建造物に認定された築100年の古民家を拠点に、昔遊びや畑仕事などのイベントを通じた多世代交流・コミュニティづくりに取り組んだ。また、地域の小学校等との協力体制ができたことにより、昨年度は住民や保育園の年長園児らと交えた花植えイベントも行った。

3年目は、これまで実施してきたイベント等のさらなる充実化を図るとともに、元気なお年寄りをはじめとする参加者それぞれの得意分野を活かした活動を日常的に行えるよう、サロン化に向けた基盤づくりに取り組む。



コミュニティカフェを拠点とした、生活困難家庭青少年への学習支援活動 埼玉県

チームひだまり

人と人をつなぎ、地域の絆を強めることを目的に、「コミュニティカフェひだまり」を拠点に高齢者世代の仲間づくりや、子育て世代に対する子育てサロン等を実施する団体(2011年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、生活困難家庭の児童生徒のための学習支援を目的に、大学生や地域居住の教員OBなどの協力を得ながら、小中学生や高校生を対象とした居場所・学習支援「ひだまり塾」を開講・実施してきた。一般会員の関心の高まりから、支援者や共感者も増え、学習支援事業について、市や社会福祉協議会等から発表や講演も依頼されるようになり、関係機関等とのつながりが強化された。

3年目は、これまで実施してきた学習支援を継続して実施し、特に小学校低学年からしっかりと支援をおこなっていくことを意識して活動に取り組む。また、新たに外国にルーツを持つ子どもたちの支援を行う。



モノづくりサロン 東京都

モノづくりサロン

障がい者福祉施設等の職員を対象に“モノづくり”に関する学び合いの場をつくることを目的とする団体(2013年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、福祉施設で作る商品の開発・販売プロセスや、商品を販売する際のディスプレイについて学ぶ場「モノづくりサロン」を開催。各福祉施設職員が参加し、商品開発や販売に関するノウハウを取得した。

3年目は、「モノづくりサロン」を継続開催しながら、一般企業の社員向け販売会などに出店し、これまで以上に商品をPRする場を設けることで、サロン受講生が開発・改善した商品を将来的に広く販売できる道を探る。



介護家庭への支援～寄り添える人を地域で増やし、支えあうまちづくり～を目指して 千葉県

特定非営利活動法人ケアラーネットみちくさ

介護を必要とする高齢者や障がい者と介護を担う介護者が、地域に見守られ、安心して暮らせるように支え合う関係を築くことを目的とする団体(2013年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、介護者の心の拠りどころとなる居場所づくり、介護者に寄り添う理解者を増やすための講演活動や養成講座、そして介護知識の習得のため医師等の専門家を交えた講義を行ってきた。

3年目は、さらに住民同士が自然な関わりから見守り、支え合う関係性がつくれるよう「居場所づくり」、「介護者に寄り添う人材育成」、「認知症カフェ」の運営を行う。地域から孤立しがちな介護者が一人で抱え込まないように、人と人、人と地域をつなげるためのコーディネート力の強化を図る。



LGBT就活ウェブサイト運営 東京都

特定非営利活動法人 ReBit

「互いの違いを受け入れあえる社会」の創出を目的に、LGBT(同性愛者、性同一性障がい者など)が自分らしい働き方・生き方を考え行動することを支援する団体(2009年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、LGBTの就職活動を支援するためのカフェ形式の情報交換会の開催やネットワーキングの場づくり、LGBTの就職活動経験者の体験談を掲載したウェブサイトの開設/運営を行った。

3年目は、立ち上げたウェブサイトの活性化を図るため、コンテンツを充実させる。社会人となったLGBT当事者の体験談や就職先の企業担当者へのインタビューレポートを継続的に掲載することで、様々な業界、職種で働くロールモデルを広く発信し、LGBTの若者が肯定的に将来を見据える一助となることを目指す。



まちづくりがきっかけでよくなる土気NGOまちづくり実践塾 千葉県

特定非営利活動法人土気NGO

千葉市近郊のベッドタウンにおいてストリートスポーツやファーマーズマーケットを通じて気軽に人と出会うことが出来るストリートゾーンを構築し、住民、行政、大学、企業をつなぎ、持続的なコミュニティモデルの構築を目的とする団体(2013年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、座学と現場でまちづくりを実践的に学ぶ「土気NGOまちづくり実践塾」を開催。参加者同士の交流から地域のマラソンマップづくりなど新たな取り組みにつなげた。

3年目は、まちづくり実践塾のさらなる質の向上を目指す。出席回数に応じたランクやまちづくりコンセプターの認定制度を設けて、塾生が上を目指せる仕組みを構築することで、地域の担い手創出の流れをさらに促進させていく。



訪問大学「おおきなき」(重度の障害を持つ方の特別支援学校卒業後の生涯学習の支援) 東京都

おおきなき

「障がいのある子ども、ない子どもが共に生きられる社会にしていくこと」を目指し、おもちゃ図書館「おおきなき」でおもちゃと絵本の部屋を開催したり、学校で「共に生きることを考える」出前授業に取り組んでいる団体(2013年設立)。

2カ年のスタート助成を受け、特別支援学校卒業後、通所施設に毎日通うことが難しい重度の障がいをもつ方を対象に、自宅まで講師が訪問し、学びの機会を提供してきた。また、ブログや紙媒体の発信を通じて普及啓発にも力を入れた。

3年目は、これまでの活動を継続しつつ、新たな取り組みとして、来年の春に文化祭の開催を目指す。訪問大学の学生と同年代の大学生の巻き込みを図りながら、文化祭の実行委員会を立ち上げ、訪問大学の学生が主役として活躍できる機会となるよう準備を進める。



「多文化親子交流会」を起点に在住外国人が安心して暮らせるコミュニティづくり 神奈川県

Sharing Caring CULTURE

外国人住民と日本人がカルチャーを通して交流することを目的に、異なる国籍を持つ人々が母語や母国の文化を活かした活動を通して、地域の住民とつながるための場づくりに取り組む団体(2014年設立)。

2 年間のスタート助成を受け、異文化交流を目的とした「多文化カルチャー講座」や「多文化親子交流会」等を開催した。特に「多文化親子交流会」は回数を重ねるごとに参加希望者が増え、外国人親子がつながる場としての拡がりを見せた。

3年目は、ニーズの高い「多文化親子交流会」を軸に、参加している外国人や地域のシニアに運営に参加してもらいながら団体の活動基盤を整え、地域に在住している外国人親子と日本人親子を結ぶ「コミュニティ」の場となることを目指す。将来的には「多文化カルチャー講座」の事業化を目標として活動に取り組む。



まちのこそだち久木 神奈川県

逗子まちのこ保育プロジェクト

子ども達が地域の人々に育てられて成長し、また保育を通して地域がつながることを願い、子育ての当事者である親同士の集団保育(自主保育)と地域のボランティア保育を組み合わせた助け合い保育の運営に取り組む団体(2012年設立)。

2 年間のスタート助成を受け、逗子市久木地区において、未就園児の一時預かりに取り組み、ニーズの高まりから保育日を週2日から週3日に増やすなど順調に活動を広げている。また2015年11月には神奈川県子ども子育て支援奨励賞を受賞するなど、地域における民間保育団体としての信頼も獲得しつつある。

3年目は、引き続きこれまでの活動に取り組むとともに、市内に次なる「まちのこそだち」が出来るよう、地域の子育てサークルや地域の関係機関等へ「まちのこ保育システム」を1つのモデルとして提案し、協働の可能性を探りながら活動の展開を目指す。



こども若者ソーシャルビジネス学校 山梨県

特定非営利活動法人 bond place

一人ひとりが相手の違いを受け入れ、他者理解と合意形成ができる社会を目指して、参加者同士がつながり、学び合う場を提供しながら、ワークショップや研修等に取り組む団体(2013年設立)。

2 年間のスタート助成を受け、子ども・若者自らが社会課題を解決するアイデアを出し合い、仲間とつながりながら、アイデアを「形」にするためのプロセスを学ぶ機会を提供してきた。そして実際に活動につなげた参加者も出てきたことからメディアにも取り上げられ、地域の関係機関との連携も深まりつつある。

3年目は、これまでアイデアを発表してきた若者がメンターとして関わる仕組みを構築し、年1回の発表のほか、社会人と子ども・若者が気軽に対話できるCaféのような場を月1回開催する。さらに参加者自らが自分の活動や事業をホームページ等を通して発信できるようにサポートを行う。



暮らしをお互いに支えあう地域づくりの拠点として、カフェ&相談事業の開設 栃木県

特定非営利活動法人 地域生活相互支援 大山田ノンフェール・くらねえ

社会的弱者、中でも精神障がいを持つ方たちと地域住民とが、ともに地域で豊かに暮らすための相互交流と相互支援を目指し、栃木県那珂川町にある旧小学校校舎において、フリースペースやステンドグラス工房、機織・草木染工房等の相互交流のための場づくりに取り組んでいる団体(2010年設立)。

3 年間のスタート助成を受け、普段の活動場所とは異なる場所へ出向いて行う「出張」ステンドグラスワークショップや展示会、精神医療に関わる援助者との交流を目的としたステンドグラスワークショップと農作業体験を組み合わせたワークキャンプなど、ステンドグラスを通じた地域・援助者交流に取り組んできた。その結果、活動の認知度は高まり、地域の美術館や喫茶店等において、ワークショップや展示会を定期的に行うことが出来た。

ステップアップ助成では、福祉サービスを一方的に受ける「ケアの場」ではなく、暮らしを支えあう「シェアの場」を作ることを目的に、活動拠点である旧校舎の一部屋を、自分たちでカフェへリフォームし、新たな地域交流の入り口となるよう、ショップなどの機能も取り入れた場の創出を目指す。また、カフェに隣接した部屋は、相談室にリフォームし、カフェに来る感覚で気軽に相談できる環境づくりにも取り組む。

選考委員会では、明確な課題意識のもと、お互いの暮らしを支えあう地域交流のための「場づくり」を行う点が評価された。この拠点が、将来的に地域の様々な人たちが共に働ける「場」へと発展していくことを期待し応援したい。



～社会で自立する力を地域で育む～「大学生ギアチェンジ・プログラム」 千葉県

CHIEの輪

大学生が自ら考え、実際に何かに取り組んだり、仲間と協力して一つの事業を担ったりする経験を通じ、自立した人生を歩むための基礎力を身につけ、社会的弱者に陥る若者を減らしていくことを目的に、若者が主体的に地域活動に関わる機会を提供したり、地域の市民活動団体・NPOの現場に持続的に巻き込むプログラムづくりを支援している団体(2010年設立)。

3 年間のスタート助成を受け、地域の市民活動団体やNPOとともに、学生たちがチームとなって主体的に課題解決を目指す「プロジェクト型学習」に取り組んできた。その結果、参加した学生たちの働き方や生き方に対する価値観に変化や成長が見られた。また、大学と地域(松戸市)の協働を目的としたプラットフォームづくりに向けた検討会の場にも、団体として関わるようになった。

ステップアップ助成では、大学生・留学生・中高生たち自身が運営者となって、様々な人や地域とつながることのできるコミュニティスペースを新たに開設する。スペースでは、地域の大人たちとともに食卓を囲む「地産地消カフェ」や対話型の学習スクール「マナビバ」などの交流事業を実施するとともに、これまで実施してきた「プロジェクト型学習」にも引き続き取り組む。

選考委員会では、若者の生きる力を育むとともに、彼・彼女らが積極的に地域に関わることで1つのロールモデルとして評価された。若者たちが、活動を通じて体得した力を、自身の自立・成長のためだけでなく、将来何かしらの形で地域に還元してくれることを期待し応援したい。



自転車タクシーを活用した高齢者等の外出応援プロジェクトとその他付随事業 東京都

特定非営利活動法人みらくる

東京都葛飾区柴又地域を中心に、地域に住む人々が、地域に愛着を持ち、生き生きと暮らし・活躍できる「未来の地域社会」を、住民・NPO・行政・企業等と共に作り上げていくことを目的とする団体(2010年設立)。

3年間の助成を受け、通院や買い物に困難な高齢者向けの自転車タクシーによる移動支援、独居高齢者の交流会や生活支援を行った。自転車タクシー事業は、民間のタクシー事業や介護保険事業ではカバーできない隙間のニーズに対応したことで、利用件数が着実に増えている。また、乗客とドライバーとの距離が近いことから、高齢者の様々な生活上のニーズが把握でき、地域交流会や生活支援事業の展開へとつながった。

ステップアップ助成では、これまでの事業を継続しながら、地域の高齢者個人の半生と地域との関わりをテーマとする自伝冊子づくりや高齢者の経験を活かした昔の郷土料理等の調理・会食事業を行う。高齢者自身の経験や知恵を活かした機会やイベントを提供することで、これまでサービスの利用者であり、受け身であった高齢者が、地域の中で生きがいを持ち、より生活の質を高めていけるよう支援を行う。

選考委員会では、日常生活の中から活動が組み立てられており、各事業が上手く連動しているという点が評価された。利用者の声を事業に反映しながら、高齢者の居場所や役割を創出する活動が先駆的なモデルとなることを期待したい。



真鶴町における「バリアフリーな海」づくり 神奈川県

特定非営利活動法人ディスカバーブルー

神奈川県真鶴町を拠点として、新しい持続可能な「人」と「海」との関係構築に寄与することを目的に、専門的・学術的な知識に基づき、「海や海洋生態系を知ることの喜びと驚き」を提供し、人と海との距離を縮めるまちづくり活動に取り組む団体(2011年設立)。

3年間の助成を受け、主に県内の小学生を対象に海の世界教育の出前授業や、既存の学校行事を兼ねた授業等に取り組んできた。また教員等向けに研修会・勉強会を実施し、各関係機関の後援・協力を得ながら、海の世界教育の必要性について理解浸透に努めた。これらの取り組みを通して、教員とのネットワーク構築や連携強化につなげてきた。

ステップアップ助成では、これまでの活動で培ってきた実績を活かし、海に関わるステークホルダーと連携しながら、「バリアフリーな海」として多様な対象者向けに海と親しむ機会を提供する。具体的には「幼児と保護者」「発達障がい児と保護者」「シニア」向けのイベントを開催し、これまで対応出来なかった層への普及啓発に努める。また実際に体験する前のバーチャルなきっかけ作りとして、ビデオ・コンテンツの作成・配信等にも取り組む。

選考委員会では、海の生物だけではなく、地域に住んでいる「人」にも目を向け、長期的なビジョンをもって活動を展開していることが評価された。地域密着型の団体として基盤を固め、大きく飛躍されることを期待し応援したい。



土・水・作物・いきものとともに、のびのび育ち合う居場所づくり～畑を拠点に、0歳から小学生までの育ちの輪をさらに広げよう～ 神奈川県

青空保育 ぺんぺんぐさ

横浜市青葉区において、自然豊かな環境のもとで1歳半から年長児を持つ保護者と保育士が、交代で子どもを預け合い、子育てを支え合うために設立された団体(2012年設立)。

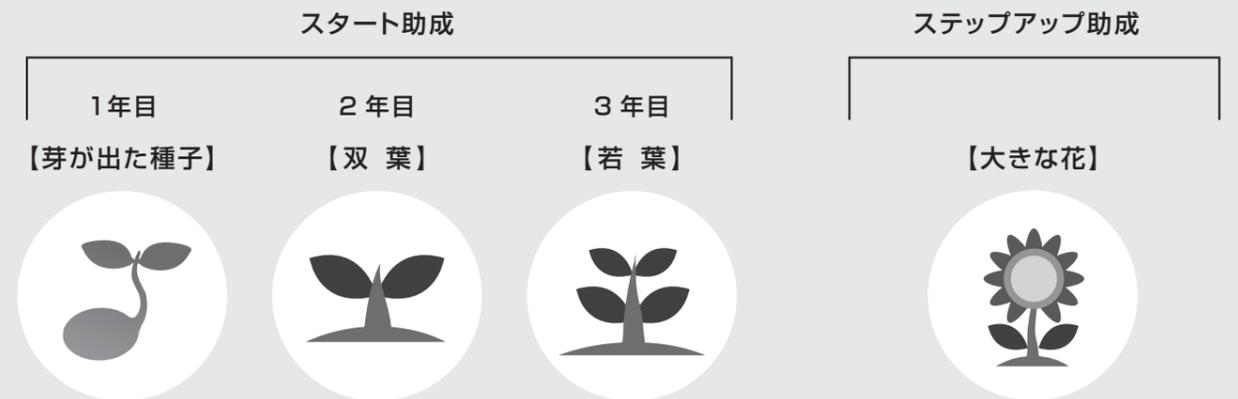
3年間のスタート助成を受け、預け合い保育による、のびのびとした子育ての実践と、参加する保護者自身も運営に関われるよう内部研修を行った。また、イベントや相談会などを通じて、団体の活動を発信することで地域の協力者を増やしてきた。これらの活動によりベテラン保護者が育ち、運営の安定化につながった。また参加費や会費等の収入が増え、自主財源で最低限の活動が可能となった。しかしながら、参加者の増加や、子どもの成長に応じたクラスの増設にともない、受け入れ体制の課題が生まれてきた。

ステップアップ助成では、これらの課題に取り組むため、活動地域の近隣にある畑の一角を借りて活動場所の整備を行う。新たな場を設けることで、参加者が集いやすくなるとともに、定員枠の増加が見込める。

選考委員会では、自主財源での運営努力や地域の協力者との連携体制の構築など、着実なステップアップが評価された。場づくりにおいては、つくるプロセスから参加者を巻き込み、安全面や衛生面については十分に留意しながら活動基盤の強化につなげることに期待したい。



● シンボルマークのご紹介 ●



芽が出たばかりの『種子』は、スタート助成1年目の団体を表しています。“これから始まる活動”や“始まったばかりの活動”を応援していることを表現しています。

『双葉』は、スタート助成2年目の団体、さらに成長した『若葉』は、スタート助成3年目の団体を表しています。活動が定着するまで継続して応援し、徐々に活動が育まれていく様子をイメージしています。

立派に咲く『大きな花』は、ステップアップ助成の団体を表しています。ステップアップ助成は、スタート助成で3年または2年にわたって活動を行った団体が対象で、さらにその活動を展開・定着させていくための資金。すでにある団体の“力”と、ろうきんの助成金という“肥料”とが合わさり、大きな“花”が咲くことを願ってデザインしています。

予備審査 担当者所感

応募を受け付けたスタート助成213件全てに対し、都県ごとに予備審査を実施いたしました。予備審査に参加した各地域のNPO支援組織と中央労働金庫都県本部の、それぞれの担当者所感を掲載いたします。



茨城県

特定非営利活動法人 ひたちNPOセンター・with you

どれが社会的に重要な課題であるのか、どのような方法での解決が最良なのか、どのように社会を変えていくことができるのか、毎年審査では迷っています。そのような時には、応募書類を何度も何度も読み込んでいきます。すると応募書類が答えてくれるのです。

当然ながら、私たちは応募書類からしか活動を判断することができません。読み手を理解させ、心に響くような応募書類をつくるためには、「皆で一緒に考える」ことが活動の再確認と言う点からも大切なことだと思います。

中央ろうきん 茨城県本部

今回応募された各団体の活動内容、目的を拝見させていただくと、どの団体の皆様も“ひとづくり、まちづくり、くらしづくり”という目的の中で、現代の日本社会が抱える課題に対して真摯に目を向け、誠実に活動をされているのだと強く感じました。それは同時に、私たちにも今何が必要で、何をすべきか、というヒントを与えてくれていると思います。

応募団体から本審査へ推薦する団体を選出するのは本当に悩みました。正直に申しますと、全ての団体に本審査に進んで欲しいと考えたくらいです。助成対象となった団体におかれましては是非、助成金を有効活用していただき、活動が広がり、発展されることを期待しております。

最後に今回ご応募いただいた全ての団体の更なるご活躍を心より祈念しております。



群馬県

群馬NPO協議会

今年は、スタート助成1年目の応募が少なく、継続2年目の応募は例年より多い傾向が見られました。どの団体も資金が潤沢に回っているわけではありません。せつかくのチャンスですから、こうした助成金にチャレンジして、自分たちが解決したいと思う社会の課題に、あきらめずに取り組んでほしいと思います。

今年も、応募用紙からはそれぞれの団体の熱い思いが伝わってきました。最長4年間助成金を受けることが可能なプログラムなので、単年度だけではなく、中期ビジョンを視野に入れた応募内容も必要かと思いません。

中央ろうきん 群馬県本部

ご応募いただいた団体の活動内容を拝見すると、「ひとづくり」「まちづくり」「くらしづくり」と、各分野における具体的な活動方針・計画が記載されており、とても頼もしく、そして未来に大いに希望が持てる前向きな気持ちとなりました。

そのような団体の評価をさせていただくため、応募された内容を定められた基準に照らし合わせ真摯に審査を行いました。共通して、どの団体からも活動を通じて地域社会に貢献していく、という高い志が読み取れました。

最後に、今回ご応募いただいた団体の、日々の活動に敬意を表すとともに、今後益々の発展を祈念いたします。



栃木県

認定特定非営利活動法人 とちぎボランティアネットワーク

予備審査を通して、地域の特性や課題に着目している、あるいは地域資源を活かしている活動に共感を覚え、応援したい気持ちになりました。この助成プログラムを活用し、その地域ならではの活動を展開し、サポーターを増やしながら、社会課題の解決に取り組まれることを願ってやみません。

応募された活動内容や、自団体の発展・成長プロセスを描くことはもちろんですが、それらが対象とする「ひと・まち・くらし」にどのような変化をもたらすのかを見据え、実践していただけることを期待しています。

中央ろうきん 栃木県本部

本プログラムにご応募いただいた書類を拝見し、それぞれの団体でご活躍されている皆様の熱い思いが感じられました。ご承知のとおり地域・社会が抱えている課題は多種多様であり、行政・企業では対応しきれないものが多くあります。だからこそ、柔軟な発想でご活躍されている皆様の活動が重要視されてきていると考えます。

厳しい社会環境の中、今回応募された全ての団体の活動が、多くの人と一緒に、更なる発展を遂げられることを祈念いたします。



埼玉県

認定特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター

埼玉県の南西部など東京に近い地域と、北東・中山間部とでは環境や事情が異なりますが、各地域の課題に沿った提案が多くあり、日々活動している様子が想像できました。活動もしっかりと計画され、「スケジュール・活動の内容」を具体的に記載している団体が多かったこともあり、逆にあまり記載されていない応募書類は目立ってしまいました。

共に活動するメンバーと、今後の活動や目標を共有する機会にもなりますので、ぜひ応募書類の作成をきっかけに、具体的な計画についてみなさんと話し合っただけであればと思いました。

中央ろうきん 埼玉県本部

予備審査を通して、改めて社会・地域が様々な課題を抱えていること、そしてその課題を解決すべく取り組んでいる方々がいらっしゃることに気づきました。

世の中の多くの人は、ともしれば狭い世界の中で生きていて、その外にある問題・課題にはなかなか気づくことができないのかもしれないかもしれません。そのような現状の中、皆様が起こすアクションは、社会・地域が抱える様々な課題にスポットを当て、世の人々に気づきを与えるといった側面でも大きな意義があります。

審査結果にかかわらず、皆様の活動が今後ますます発展されることを願っております。

予備審査

担当者所感



千葉県

特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

どの団体の応募内容も、独自の視点で地域の課題解決を図ろうとするもので、甲乙つけがたいものでした。その中でポイントとしたのは、継続性と人材育成の視点です。他団体や行政等との連携、活動を通して人の広がりを作っていくことが、地域活動では大切だと思います。スタート助成1年目の応募内容の多くは、地域住民の交流を目的としたものでした。

年代や障がいの有無を越えて交流できる場を、市民が主体的につくり、運営していこうという機運を感じます。それぞれの活動が地域に根付くことを願います。

中央ろうきん 千葉県本部

各団体から寄せられました応募書類を拝見いたしまして、高齢者・障がい者の支援や子育てなど、さまざまな分野で課題を抱えながらも、少しでもより良くしていこうと積極的に活動されていることを改めて知ることができました。

審査を行うなかで、応募された皆さまの熱意が書類の中から伝わり、とても苦労しました。

今回、助成の対象となった団体、残念ながら対象とならなかった団体も含めて、皆さまの活動が今後も大きく発展し、地域社会の未来に貢献されることを祈念いたします。



神奈川県

認定特定非営利活動法人 藤沢市市民活動推進連絡会

今年の予備審査も大変難しいものとなりました。応募された活動によって解決が期待される課題の多様性もさることながら、活動そのものも多種多様でした。それぞれの強みを生かし、地域を構成する市民ならではの視点で構成された活動が、数多く見られたことも優劣をつけがたい要因の1つでした。継続助成では、発展性が見られる活動だけではなく、前年度の経験から得た新しい気づきによる活動の応募もありました。

目的を達成するためには、柔軟な発想も必要です。これからの活動に期待の膨らむ予備審査となりました。

中央ろうきん 神奈川県本部

予備審査にあたり「ひと・まち・くらしづくり」をテーマに、各団体が問題意識を持ち解決を目指しながら、日々奮闘されていることに感銘を受けました。

どの団体も素晴らしい活動でしたが、特に様々な弊害にも屈せず、人と人が繋がりを持てる活動に、とても共感しました。ぜひ温かい社会の実現に向けて、一緒になって考えていきたいと思っております。

最後になりますが、今回ご応募いただきました全ての団体の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



東京都

東京ボランティア・市民活動センター

多様化・深刻化する社会や地域の課題に対し、専門性を活かした丁寧な取り組みを企画されているものがあり、このような課題に関するご相談を本センターでも多数受けていることから、興味深く応募内容を拝見しました。一方で、同じ悩みを持つ人や課題に関心を持つ人、同じ地域に暮らす人など、誰もが立ち寄りたり話をしたり、活動することができる場所づくりへの取り組みも広がっていると感じました。

これから活動を始めたい、ますます力を入れて取り組みたいという団体にとって、本助成が良いきっかけとなることを願っています。

中央ろうきん 東京都本部

応募書類は、結構ボリュームがあるなど感じました。これだけのボリュームがあるならば、選考にあたり何にポイントを置くのか、自分が判断する“ブレない基準”を持たなければと考え、1つの事を決めました。

“苦しんでいる人、困っている人、悩んでいる人を助けたい”助成金として資金的なサポートを行うのであれば、このような方たちの役に立つ活動を優先的に選ぶと考えました。

応募書類に目を通していく中で、活動が展開され、参加者が笑顔になっていくシーンが思い浮かびました。多くの賛同者が集い、活動の輪が広がることを祈念します。



山梨県

特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会

山梨県には、人口減少や高齢化など様々な課題があります。今回応募いただいた活動内容は、地域活性化や子育て支援など、当事者でないと把握できない課題がほとんどで、私自身も沢山の発見があり、皆さんの問題意識の高さを感じました。しかし、スタート助成2年目・3年目の応募数が少なく、活動の継続性が難しいことも痛感しました。未来の山梨が住みやすい社会になるよう、皆さんの活動が活性化していくことを期待しています。

中央ろうきん 山梨県本部

今回の予備審査にあたり、多くの団体の皆様から寄せられました応募書類を拝見しました。

各団体におかれましては、地域において多くの課題や困難を抱えながらも、住みよい地域の実現を目指し、活動を行っていることを改めて実感いたしました。

応募されたどの団体の活動も内容のあるもので、皆様の熱意が応募書類から伝わり、審査に悩みましたが、活動地域への貢献度や助成後の発展性などを重視しました。

最後に、応募いただきました各団体の更なる発展をご祈念申し上げます。

本審査

選考委員 所感



各地域の予備審査を経て、選考委員会を開催いたしました。
6つの選考基準（地域貢献性、参加性、独創性、実現性、成長性、発展性）
に基づき選考にあたった、各選考委員の所感を掲載いたします。

特定非営利活動法人とちぎユースサポーターズネットワーク 代表理事 岩井 俊宗



私自身も「若者の力を活かして、地域の課題解決／活性化を加速していく」挑戦の最中であり、皆様と近い立場ですが、しっかりと申請書を読ませて頂きました。

各団体が切り取る社会課題には、それぞれの専門的知見もありますが、社会課題の原因は複雑に絡み合っており、時に分野を横断しなければ、対応が難しいこともあります。加えて、物事を進めていく際には、多くの人の力や資源を活かし合いながら進めていくことが、言うまでもなく必要不可欠になります。それら「繋がり」の求心力となりうるものが、「共感」だと考えます。

応募書類では、内容の取り組みについてはよく理解できるものの、それが誰に対して、どんなHAPPYを提供して、どんな変化を起しうるのか、その取り組みによって起きる変化(価値)が読み解きづらいものもありました。支援を必要としている対象者の声や、取り組みが必要な原因や背景には何かがあるのか、地域内で似た取り組みがあるのか、そこの連携や関係性はどうなっているのか、選考の前にその価値や意義を感じてもらおうことです。この期待値は助成金の選考だけではなく、日常活動の利用者(参加者)を巻き込む際にも同じことが言えます。活動に関わったらHAPPYになるというイメージを持たせられるかどうかが大変なポイントになると思います。これからの皆様の挑戦が、より一層加速できますよう、祈念致します。

労働者福祉東部ブロック協議会 会長 黒河 悟



今回も数多くの応募があり、1都7県の予備審査を通られた本審査案件を審査しましたが、それぞれ時代や地域が求めている諸課題に正面から取り組まれている、また取り組まれようとしていることに、まずは応募された全ての団体にエールを送りたいと思います。私が所属する労働者福祉協議会は、その活動のスローガン・目標を「連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会」としてしています。この助成プログラムが掲げる「ひと・まち・くらし」づくりは、私たちが目標とする地域での具体的実践と同様であるとも言えるでしょう。

今回の応募内容を見ますと、やはり時代を反映してか、子育てや子どもの貧困に関する取り組みが多かったように思います。それは、これらが今日の課題であるとともに、将来へも大きな影響を与えることを、市民が肌で感じているからに他なりません。また、内容を見ると、同じ課題でも取り組み方には団体で違いがありますが、それぞれの取り組みを参考にすればお互いに高め合っていくこともできます。

最後に、中央ろうきん助成プログラムは、資金を提供するだけではなく、団体を社会的にバックアップしているということを実感します。助成対象団体の皆さんには、この意義をしっかりと受け止め、1年間頑張ってくださいと思います。

一般社団法人環境パートナーシップ会議 副代表理事 星野 智子



地域のさまざまな課題について真摯に取り組む皆様の活動に触れ、毎年、市民活動を応援する立場の人間としても心強く感じております。

人やまちを育てる、たくさんのアイデアや計画が盛り込まれており、どれも社会的に大事な活動だと思えるものばかりでした。また、さまざまな課題を抱えて暮らしている方々を取り巻く環境の改善が求められていることも浮き彫りになりました。このプログラムで助成することによって更なる発展が見込めるか、たくさんの新しいつながりや活動を生み出すことに貢献できるか、など熟慮して選考しました。

スタート助成2年目や3年目の活動については、前年と同じ活動を続けるだけではなく、対象者を増やしたり、協力者を新たに加えるなどの工夫が見られ、発展的だと思える活動をいくつか見ることができました。昨年もそうでしたが、パートナーミーティングで団体同士のつながりを作り、それをうまく活用していただけていると思いました。その意味でもこのプログラムの社会的意義を感じる事ができました。

各地での活動の芽が育ち、大きな花となり実となりますよう、期待しております。

一般財団法人ハウジングアンドコミュニティ財団 チーフ・プログラム・オフィサー 吉野 裕之



助成の直接的な目的は、団体の財政を安定させ活動を推進すること。しかし、組織や活動の基盤づくり、事業能力の開発や強化を図るきっかけづくり、対外的な信頼の獲得、活動の評価・改善のきっかけづくりなど、さまざまな効果があります。ですから、より多くのNPO・市民活動団体に、こうした効果をご自身のものにしていただきたい、つまり助成対象となっていたいただきたいと思っています。

そのためには、しっかりと活動内容をまとめ、しっかりと応募書類をまとめることが大切。どちらも、キーワードは「共有」だと思います。前者についていえば、地域の人たちと共有する。後者についていえば、選考に関わる人たちと共有する。共有とは巻き込むこと。地域の人たちを巻き込んだ活動内容に、選考に関わる人たちを巻き込んだ応募書類に。つまり両者に放っておけない、と思わせること。

選考を通して、地域や社会の課題は複雑で、それは比較的早い時間で変化している、ということを実感しました。応募された全ての団体にお礼を申し上げるとともに、残念ながら助成対象とならなかった団体には、「共有」ということをさらに意識し、目標や方法を組み立てていってほしいと思います。

中央労働金庫 総合企画部CSR企画 チーフマネージャー 岩村 真奈美



スタート助成1年目では、地域によって特徴のある課題がある一方で、社会的に関心が高まっている貧困やダイバーシティ、高齢者などに関する活動の応募も多く、報道される様々な問題は、地域で現実に起こっており、それらを解決するために活動している人たちが大勢いらっしゃることを実感しました。

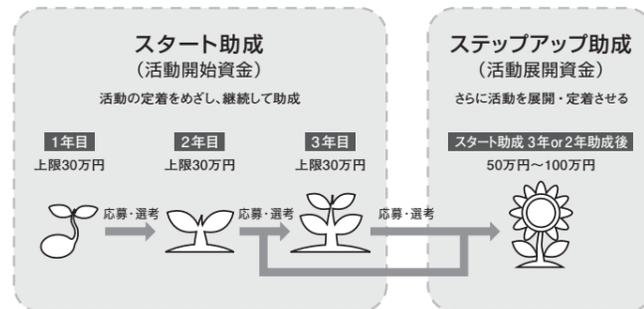
どの団体の応募書類からも、活動の必要性や問題の深刻さなどが伝わってきましたが、選考にあたっては、助成金を使うことで、団体の活動が地域の中でどのように広がり、また、活動に関わる人たちがどのように増えていくのかについて、団体内で思い描いているかを意識しました。また、公平性を期すために、選考委員会では、応募に際してのルール(書式、記入方法、提出期限等)が守られているかについても厳格に判断しました。

継続助成では、これまでの活動の振り返りと課題認識が団体内で共有され、団体の未来が応募書類に描かれているか、また、報告書の提出状況や、事務局とのコミュニケーションがきちんと取れているかなども考慮し、選考を行いました。応募いただいた全ての団体の皆さまに感謝するとともに、採択された団体とは、助成金だけではないお付き合いができることも楽しみにしています。

ステップを踏んでチャレンジする、継続助成制度

スタート助成1年目の助成が決定すると、活動の発展に伴って2年目、3年目、更にステップアップ助成へと継続的に応募し、最長4年間の助成に挑戦することができます。

継続して助成を受けるには、年ごとに応募し、選考を受ける必要がありますが、応募用紙を作成することで、各団体の活動の目的・内容・方向性などを改めて振り返っていただく機会の創出につなげています。



“つながり”を大切にする助成制度をめざして

年ごとに実施されるこのプログラムでの出会いは、一期一会。〈中央ろうきん〉と助成団体との出会いはもちろん、助成団体同士の出会い、選考や運営に協力いただく選考委員・NPO支援組織の方々との出会いがあります。このプログラムで出会った方々との“つながり”を大切に、分野や地域を越えた新たなネットワークやパートナーシップを築いていただくため、年に数回の交流の場を設けています。

● パートナーミーティング (贈呈式)

助成決定後に、贈呈セレモニーと交流会の2部構成で開催いたします。助成が決まったすべての団体にご出席いただくほか、プログラムの関係者が一堂に会し、1都7県から地域のNPO支援組織の方や〈中央ろうきん〉職員もお祝いに駆けつけます。「パートナーミーティング」の名のとおり、これから始まるお付き合いの挨拶も兼ねて、相互の理解と親睦を深める交流の場となっています。



● フォローアップミーティング (中間報告会)

助成期間を一定期間経過したのち、最長4年の助成制度を上手に活用し、それを糧にそれぞれの団体が自立した事業運営を進めていくためのワークショップを実施しています。活動の成果や課題を振り返ることで自分たちの活動を見つめ直す機会となるほか、他の団体の活動内容や助成金の活用方法を知ること、今後の活動のアイデアを共有する機会となっています。



<2016年スケジュール>



協力団体

<企画・運営>

- 特定非営利活動法人 市民社会創造ファンド <http://www.civildfund.org/>
東京都中央区日本橋堀留町1-4-3 日本橋MIビル1階 / TEL: 03-5623-5055

<広報・予備審査・選考>

- 特定非営利活動法人 ひたちNPOセンター・with you <http://www12.plala.or.jp/NPOWY/>
茨城県日立市弁天町2-12-10 / TEL: 0294-22-6292 / E-mail: withyou@agate.plala.or.jp
- 認定特定非営利活動法人 とちぎボランティアネットワーク <http://www.tochigivnet.com/>
栃木県宇都宮市塙田2-5-1 共生ビル3階 / TEL: 028-622-0021 / E-mail: tvnet1995@ybb.ne.jp
- 群馬NPO協議会 <http://gunma-npo-kyougikai.way-nifty.com/>
群馬県前橋市大手町1-1-1 県庁昭和庁舎1階 NPOボランティアサロンぐんま内
TEL: 027-243-5118 / E-mail: gunma-npo-kyougikai@nifty.com
- 認定特定非営利活動法人 さいたまNPOセンター <http://www.sa-npo.org/>
埼玉県さいたま市浦和区東仲町12-12 ツインハイツ102 / TEL: 048-811-1666 / E-mail: office@sa-npo.org
- 特定非営利活動法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ <http://npoclub.com/>
千葉県千葉市美浜区真砂5丁目21-12 / TEL: 043-303-1688 / E-mail: npo-club@par.odn.ne.jp
- 東京ボランティア・市民活動センター <http://www.tvac.or.jp/>
東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ10階 / TEL: 03-3235-1171 / E-mail: center@tvac.or.jp
- 認定特定非営利活動法人 藤沢市市民活動推進連絡会 <http://f-npon.jp/>
神奈川県藤沢市藤沢577番地 寿ビル301号室 / TEL: 0466-53-7366 / E-mail: f-npoc@shonanfujisawa.com
- 特定非営利活動法人 山梨県ボランティア協会 <http://www.yva.jp/>
山梨県甲府市丸の内2丁目14番13号 ダイタビル5F / TEL: 055-228-3300 / E-mail: vol01@yva.jp

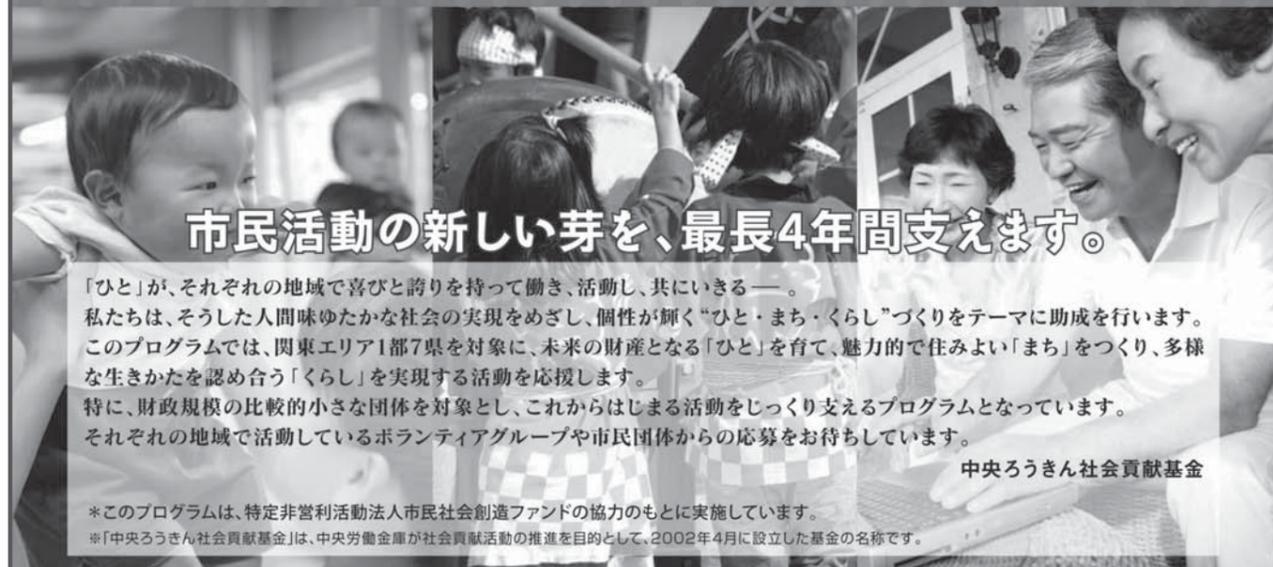
2016
募集要項

〈対象地域〉
関東エリア
1都7県

中央ろうきん助成プログラム

応援します!

個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくり



市民活動の新しい芽を、最長4年間支えます。

「ひと」が、それぞれの地域で喜びと誇りを持って働き、活動し、共に生きる――。
私たちは、そうした人間味ゆたかな社会の実現をめざし、個性が輝く“ひと・まち・くらし”づくりをテーマに助成を行います。
このプログラムでは、関東エリア1都7県を対象に、未来の財産となる「ひと」を育て、魅力的で住みよい「まち」をつくり、多様な生きかたを認め合う「くらし」を実現する活動を応援します。
特に、財政規模の比較的小さい団体を対象とし、これからはじまる活動をじっくり支えるプログラムとなっています。
それぞれの地域で活動しているボランティアグループや市民団体からの応募をお待ちしています。

中央ろうきん社会貢献基金

*このプログラムは、特定非営利活動法人市民社会創造ファンドの協力のもとに実施しています。
*「中央ろうきん社会貢献基金」は、中央労働金庫が社会貢献活動の推進を目的として、2002年4月に設立した基金の名称です。

1 対象分野

下記の3分野を対象とします。
(複数の分野にわたって取り組む活動も歓迎します)

- (1) ひとづくり：
未来をにう子どもや若者たちが、個性豊かに成長し、自立した個人として地域で行う活動 など
- (2) まちづくり：
生活の場としての居住地や商店街などを魅力的な空間とし、自然や歴史を生かした住みよい地域環境をつくる活動 など
- (3) くらしづくり：
地域に生きる人が、さまざまな障害や困難を乗り越えて地域社会に積極的に係わり、安心して自立した生活を実現するための活動 など

2 重視する活動

- (1) はたらく人が、自らの経験を活かして参加する活動
- (2) 自らの地域をよりよくするために、さまざまな人が自発的に参加する活動
- (3) 地域のさまざまな団体が連携し、参加する活動

3 募集期間

2016年1月4日(月)～2016年1月14日(木)〈必着〉

4 助成対象期間

2016年6月1日～2017年5月31日の期間に行われる活動を助成対象とします。

5 助成対象団体

- (1) 1都7県(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川県、山梨)を主たる活動の場としているボランティアグループや市民団体(NPO法人等)
※上記エリア内で、広域的に活動を行っている団体も対象とします。
- (2) スタート助成は、おおむね団体設立から5年未満(任意団体期間含む)であり、支出規模500万円未満(直近年度実績)の団体を主な対象と想定しています。
- (3) ステップアップ助成は、スタート助成で3年または2年にわたって助成を受けて活動を行った団体が対象です。

6 助成内容

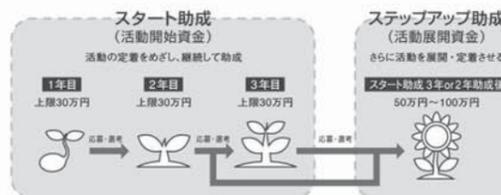
助成総額はおおむね2,000万円です。
このプログラムは、地域で新たに活動が開始され、その活動が定着することを願い、最長で4年の助成を受けられる仕組みです。

(1) スタート助成(活動開始資金)

- 1団体 上限30万円
- ・新たな活動を開始するための助成で、団体の活動実績を問いません。
 - ・活動の定着まで最長3年にわたって継続して助成を受けることができます。ただし、年ごとに応募し、選考を受けていただきます。

(2) ステップアップ助成(活動展開資金)

- 1団体 50万円～100万円
- ・「スタート助成で3年または2年にわたって助成を受けて活動を行った団体」が、さらにその活動を展開・定着させていくための助成です。



7 対象費目

スタート助成では、活動に必要な直接経費の他、助成額の30%まではスタッフ等の人件費も含めることができます。(なお、ステップアップ助成では、人件費や事務局諸経費などについての上限は特に定めません。)

8 選考方法

選考は下記の選考基準に基づいて選考委員会にて行います。

- (1) 地域貢献性：住みよい地域を実現するもの
- (2) 参加性：2に記載の【重視する活動】を参照
- (3) 独創性：新しい試みに挑戦するもの
- (4) 実現性：計画の意図や内容が実現できる可能性の高いもの
- (5) 成長性：活動を通して人も組織も育つもの
- (6) 発展性：助成後も活動の発展があり、波及効果が期待されるもの

本プログラムで取得する個人情報につきましては、選考および助成金セミナー開催の告知に必要な範囲で利用し、当基金が責任をもって厳格に管理を行い、担当事務局(中央ろうきん社会貢献基金、中央労働金庫、市民社会創造ファンド)、および選考委員・予備審査担当者以外の第三者に提供することはありません。

中央労働金庫(中央ろうきん)

労働金庫(ろうきん)は、労働組合や生活協同組合のはたらく仲間が、お互いを助け合うために資金を出し合ってきた協同組織の金融機関です。はたらく人たちの暮らしを支え、快適で過ごしやすい社会づくりをめざしています。中央ろうきんは全国に13ある労働金庫のうちの一つで、関東エリア1都7県を対象に事業をしています。

9 「募集要項・応募用紙」の入手方法

「募集要項・応募用紙」は以下のいずれかの方法により入手できます。

- ① 中央ろうきんのホームページからダウンロード。
- ② 最寄の中央ろうきん窓口。
- ③ 2015年12月7日(月)に東京にて開催する「助成金セミナー」への参加。(詳細は中央ろうきんのホームページ参照)

10 応募方法

応募用紙(所定の書式による)のみ、折りたたまずに、郵便にてお送りください(持ち込み不可)。なお、選考過程で、必要に応じて聞き取り調査の実施や団体の定款・事業報告書などの提出をお願いすることがあります。
※お送りいただいた書類はお返しできませんので、送付前に必ずコピーをとっておいてください。

11 選考結果

選考結果は、2016年5月上旬を目途に文書にて連絡いたします。なお、採否に関するお問合せには応じられません。

12 助成決定後について

- (1) 団体名、代表者名、所在都県名、活動名、活動概要、活動対象地域、助成金額を公表します。
- (2) 覚書を「中央ろうきん社会貢献基金」と締結し、それに基づいて活動していただきます。
- (3) 贈呈式(2016年5月27日(金)開催予定)にご出席いただきます。
- (4) 中間報告書と完了報告書をご提出いただきます。
- (5) 中間報告会(2016年12月開催予定)にご出席いただきます。
- (6) 中央ろうきんの社会貢献活動に関する広報活動にご協力願います。

選考の結果、助成の対象とならなかった団体向けのセミナー(2016年6月開催予定)を実施します。詳細は、選考結果と併せてご案内させていただきます。

応募用紙送付先・問い合わせ先

中央ろうきん社会貢献基金
(中央労働金庫総合企画部内) 担当：笹沼・高瀬
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-5
フリーダイヤル：0120-86-6956(平日9時～18時)
URL：<http://chuo.rokin.com>

特定非営利活動法人市民社会創造ファンド

新しい市民社会の実現に寄与することを理念とし、NPOの資金源を豊かにし、民間非営利セクターの自立した発展と活発化を図ることを目的に、日本NPOセンターの実績の一部を継承・発展するがため設立(2002年4月1日)。個人・企業・団体等からの多様な寄付や助成の受け皿となる専門的なコンサルテーション機能を備えた資金仲介組織です。 <http://www.civilfund.org>

